深め合う体験学習をめざして

ー第４学年「太田川探検パート２」の実践を通してー

柏　木　俊　明

１　はじめに

本校は環境を「自分と環境とのかかわりを見据える領域」と設定して実践を行っている。身近な環境や動植物への慈しみから発展させ，環境を自分たちのかかわりの中で見つけていく学習を展開しようとしている。

特に，水とかかわり合いを大切にして，各学年に応じた活動の場を設定し，それぞれの場所における特色を感じ取ることができるように実践を行っている。また，環境と自分たちとのかかわりだけでなく，自分たち自身が環境を材料にして考え，深め合う場も設ける。そうすることで，一人一人の考えがより確かなものとなり，生活の中で実践していく力となる。

本実践では，こうした深め合う体験活動を模索し，環境について強く意識をもったり，考えを深めたりすることはできないかと，実践を行った。

２　深め合う体験をめざして

４年生は，３年生に引き続いて同じ場所で太田川探検の活動をすることとなる。二度目の活動という事で，３年生の活動を思い起こしながら，どんな活動ができるか，ある程度の見通しをもつことができる。そのため，４年生での活動をより高めていくために，次のような視点をもって取り組むこととした。

⑴　環境（太田川）と深くかかわる

二度目の活動を生かして，違いを意識して太田川と深くかかわれるようにした。

①季節の違い

４年生の活動は，７月に行った。活動が７月ということで，気温や水温は３年生の活動とは，ずいぶん違っている。また，まわりの自然の様子も随分違う。このような夏と秋の季節の違いを感じることを大切にしたいと考えた。

②猿猴川との違い

１年生の時に，学校近くの猿猴川の探検を行った。近くの川ではあるが，川に降りてじっくり見に行くことは少ない。そこで，この探検を行うにあたり，もう一度この川を見て，太田川上流の探検を行った。また，猿猴川と太田川は，一つの川だということをしっかり意識させたかった。猿猴川と太田川は名前が違っているために，違う川と感じてしまう。そこで，同じ川として意識しながら，上流と下流の違いを感じさせたいと考えた。

⑵　人と深くかかわる

太田川探検では，同じような活動をしたい子どもで，グループを作ることにした。グループを作ることによって，一人ではできなかったことが可能になり，活動が深まるであろう。子どもたち同士で，様々な発見を認め合うことで，意欲や関心も喚起できる。また，グループでの活動は，安全面の配慮という点からも大切である。

３　実践について

⑴　単元のねらい

○自分のめあてをもつて，身の回りの環境（太田川上流，猿猴川）にかかわろうとする子ども。

○季節の違い，水質や川全体の様子の違いを意識して，環境について疑問をもち，活動する子ども。
○活動（体験）したことを自分なりの方法で表現しようとする子ども。

⑵　活動の実際　　（・は子どもの反応）

第１次　この水はどこの水

２種類の水を子どもたちに提示する。

A，B２種類の水は，みんなのよく知っている場所の水です。いったいどこの水でしょう。

・Aはきれいな水だけれど，Bは水が少しきたない。
・Aは臭いがないが，Bは臭いがある。海水のような臭いだ。
・Aは水道水みたい。でもあまり消毒の臭いはしないね。

Aはみんなが昨年探検に行った太田川上流域の水です。Bは，みんなが１年生の時に探検に行った猿猴川の水でした。

１年生の時には，猿猴川で探検をしているが，その時感じたことは深く印象に残っているようである。しかし，その印象だけだと，上流域との違いがはっきりしない。そこで，１年生の探検した経験を生かしながら，上流域との違いを意識するために，もう一度探検を行うことにした。

第２次　猿猴川探検パート２

各自で，何を見てくるか，どんなことをしたいかの計画を立てた。今回は，個々で見る視点をもたせ，探検を行うことにした。川に入るため，地面が泥であることや，ぬかるんでいることなどには特に留意し，準備を行うようにした。

猿猴川を探検しよう。

・カニがいっぱいる。　　・思ったよりゴミが少ない。
・魚がいる。　　・カキ殻が多い

川の深みには，近づかないように留意し，活動を行った。生き物は，写真などに記録として残したり，ゴミはバケツに集めたりして持ち帰り，後の太田川探検の比較に用いた。

猿猴川探検パート２の活動

第３次　太田川探検パート２へ

猿猴川で感じたことを，全体で確認することで，猿猴川の全体像をつかむことができる。このことは猿猴川を太田川上流域と比較するための基準となる。

太田川は猿猴川と同じ川なの？

・同じ。　　・えーと，どうだったかな。　　・地図で見てみよう。

太田川と猿猴川は同じ川でありながら，同じ川という意識が薄い。そこで，地図で確認する事で，同じ川で違いがあるという視点をもつようにする。

太田川探検パート２では，特にどんな点に気を付けて探検したらいいだろう。

・自然を見たり調べたりする。　・猿猴川との水の違いを見る。
・季節の違いを見る。

安全面と情報交換ができるというメリットから，同じような課題をもつ児童同士で，グループを作る。昨年自分たちと同じような活動をした友だちに，質問をするカードを作り，質問に答えられる内容は，答えを表にまとめることで，見通しをもち

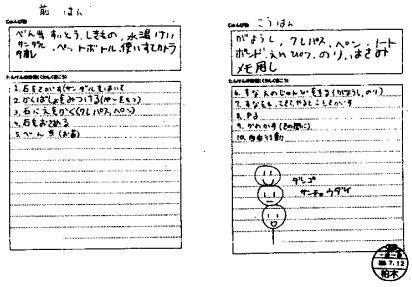
・魚釣りグループ
・小魚とりグループ
・石を中心にしたグループ
・水調べグループ
・スケッチグループ

グループの内容

やすいようにした。

太田川探検パートⅡの計画を立てよう。

・魚を釣りたいから，この時期にどんな魚がいるか聞いて準備しよう。
・水を調べるためにパックテストを持って行こう。
・砂で絵を描くために，ボンドを準備しよう。
・午前中はまず水調べがいるな。
・植物を調べるので図鑑を持って行こう。



第４次　レッツゴー　太田川探検パート２

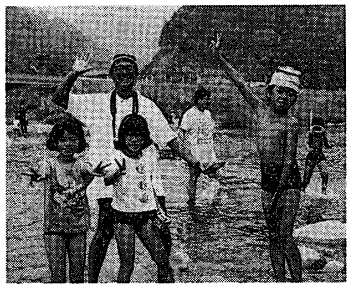
探検は朝出発し，たっぷり時間をとって活動が組めるようにした。

太田川探検パート２へ出発。

・川はきれいだ。　・気持ちがいいぞ。　・流れが速いぞ。
・砂もきれいだ。　・魚も，昨年よりよく釣れたぞ。

活動するときには，水の中に入る場合もあるので，安全面から保護者の方にも支援をお願いした。また，保護者の方には，総合的な学習の様子を理解してもらうためのよい機会ともなった。

太田川探検パート２の活動



第５次　探検をまとめ発表しよう。

探検したことを，それぞれの表現の仕方で，発表できるように準備をした。発表に関しては，自分たちがどんな活動を行ったかを紹介すると共に，先に示した２つの視点について，特に気を付けてまとめを行った。

伝えよう！　太田川探検パート２

・猿猴川は泥が多かったけれど，太田川はきれいな砂が多かった。
・水は温かく，秋とは違った。　・カニの種類が違っていた。
・川の場所によって，水の流れが随分違う。

発表は，グループ毎に行ったが，個々に調べた内容や活動した点についても，随時紹介していくようにした。子どもたちは，発表の中で参考になったことはメモすることで情報を共有しあった。

４　実践を終えて

今回の探検へ向けての課題作りは，太田川上流と猿猴川との違い，同じ太田川の上流で季節の違い，という２つの視点を柱にもち，さらに子どもたちの個々の課題づくりも行った。子どもたちは比べる対象がはっきりしていることや，前と同じ場所へ探検に行くことで課題がもちやすく，よりくわしく調べることができると考えたようである。２つの視点をもつことは，個々の課題をせばめた傾向があるとも感じたが，ある程度の方向付けの中で課題をもつことは，意識して環境ともかかわることができ，大変有効であると感じた。

また，小グループでの活動では，子どもたち同士のつながりの中で，川の様子を互いに確かめ合ったり，魚の様子を教え合ったりと，発見を共有したり考えを確かなものにしたりしていく様子が見られた。このことは，個々の課題の解決へ向けてつながっていったと考えられる。